

参考

参考資料

～第2回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会～

すこやかセンターの現状分析

- 1 ライフサイクルコスト(試算)について
- 2 施設の利用状況について
- 3 2階 老人福祉センターの利用状況分析
- 4 3階 子育て支援施設の利用状況分析

1 すこやかセンターのライフサイクルコスト(試算)について

大規模改修費用 約14億円

過去の工事費ベースから試算

+

将来的な運用コスト 約35億円(÷141,064千円×25年)

過去5年間の運営経費から試算(運営経費の平均 141,064千円)

本市の公共施設保全計画の標準ルールでは、25年後に再度大規模改修・建替を実施

※市直営部分の人件費・需用費等は除く

=

約49億円 + α

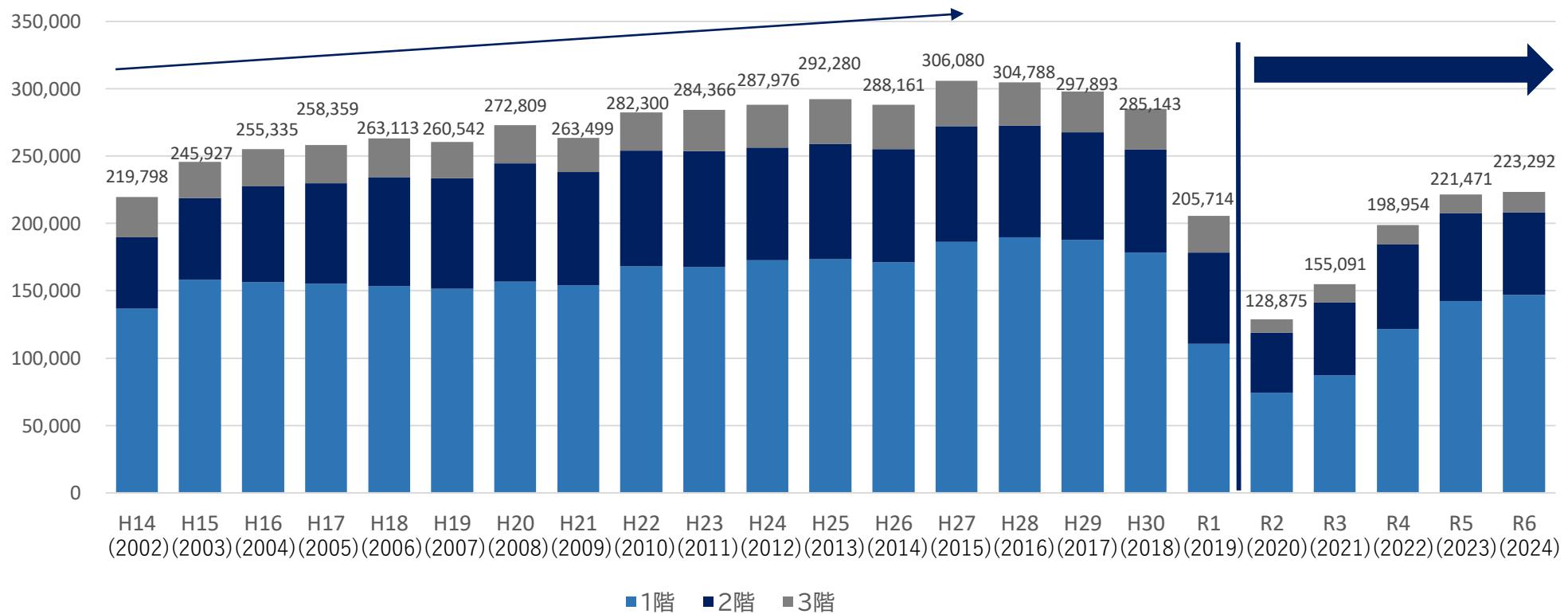
近年の賃金・物価水準の大幅上昇から、今後維持管理コストの増大が見込まれる



すこやかセンターを大規模改修すると、今後、25年間で50億円以上の投資が必要となる

2 施設の利用状況について

- 開設から平成27年度(2015年度)まで利用者が増加傾向にあったが、以降は、減少傾向にある。
- 加えて新型コロナウイルス感染症流行の影響で利用者が大幅に減少。5類感染症に移行した令和5年度(2023年度)以降も利用者数は回復していない。



※H14.4.30開設のため、H14の利用実績は1か月少ない。
※R1の利用者の減少は、プール天井の長期改修に伴うもの。

3 2階 老人福祉センターの利用状況分析

老人福祉センターとは

老人福祉法に基づき設置することができる施設であり、無料又は低額な料金で、高齢者に関する各種相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的とする施設(本市では条例で9時から17時までの利用を60歳以上に限定。17時以降は貸館として運用している)。

活動内容

活動内容は大きく3種類に分かれる。

- ①一般登園(個人):囲碁・将棋、カラオケ、図書利用等
- ②一般登園(団体):ダンス・音楽等のサークル活動
- ③校区登園 :老人クラブ会員に対して、地域から老人福祉センターまでバスで送迎し教養講座・体操等を実施

加えて17時以降は、使用料を負担いただき、施設の一部を一般利用に開放している。

	R 6 (2024)
一般登園者 (個人利用)	23,247人
一般登園者 (団体利用)	31,082人
校区登園 (老人クラブ会員)	7,114人
一般利用	8,806人

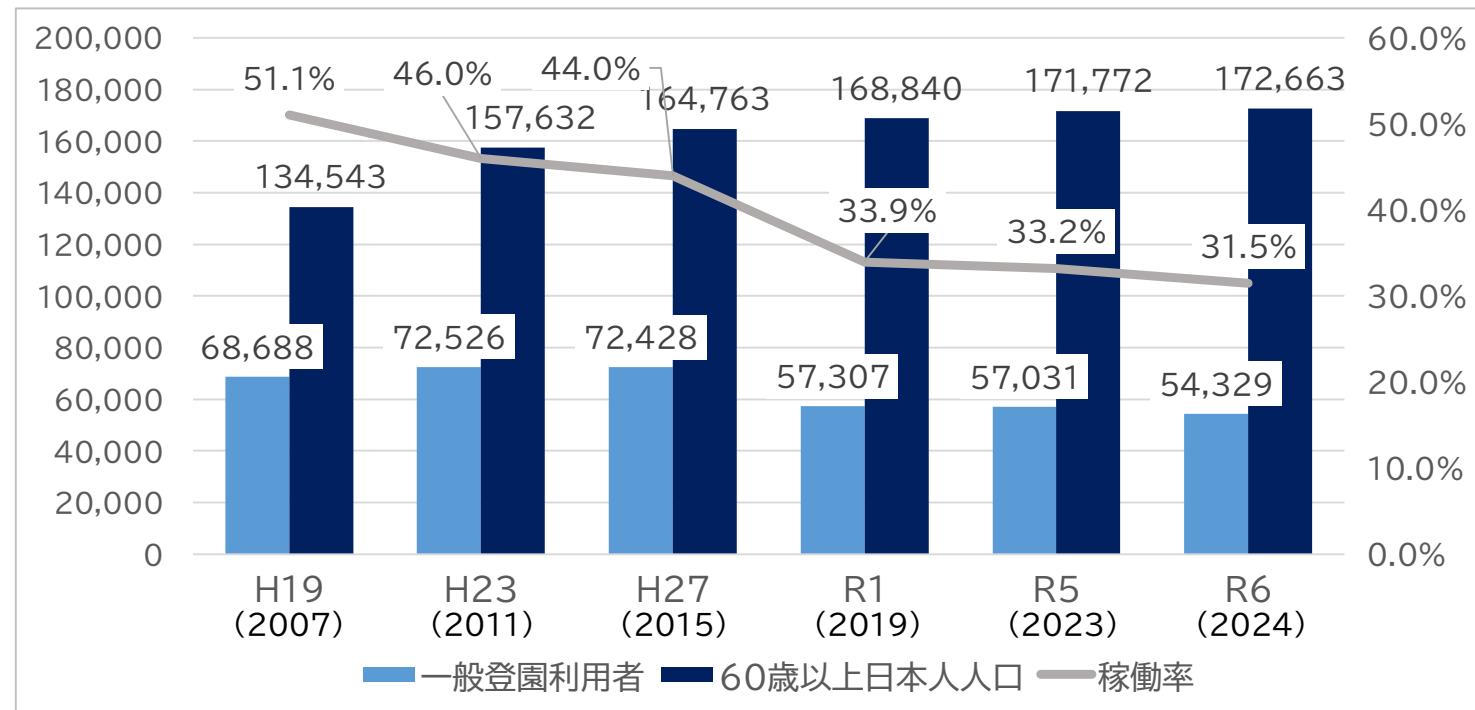
利用料金

厚労省の定める設置要綱には「老人福祉センターの利用は原則として無料とする。」と規定されており、9時から17時までは利用料金を徴収していない。

3 2階 老人福祉センターの利用状況分析

一般登園利用者の状況

- 一般登園利用者は平成23年(2011年)をピークに利用者が減少。
- 60歳以上人口は増加しており、本市の60歳以上人口に対する一般登園利用者は、51.1%から31.5%に低下。



実利用者数の調査

一般登園(個人)の利用状況

- 利用簿に記載のあった1人当たりの年間平均利用回数は82.4回であった。
- (年間利用者数)23,247人÷(平均利用回数)82.4回=282人が実利用者数と推計。

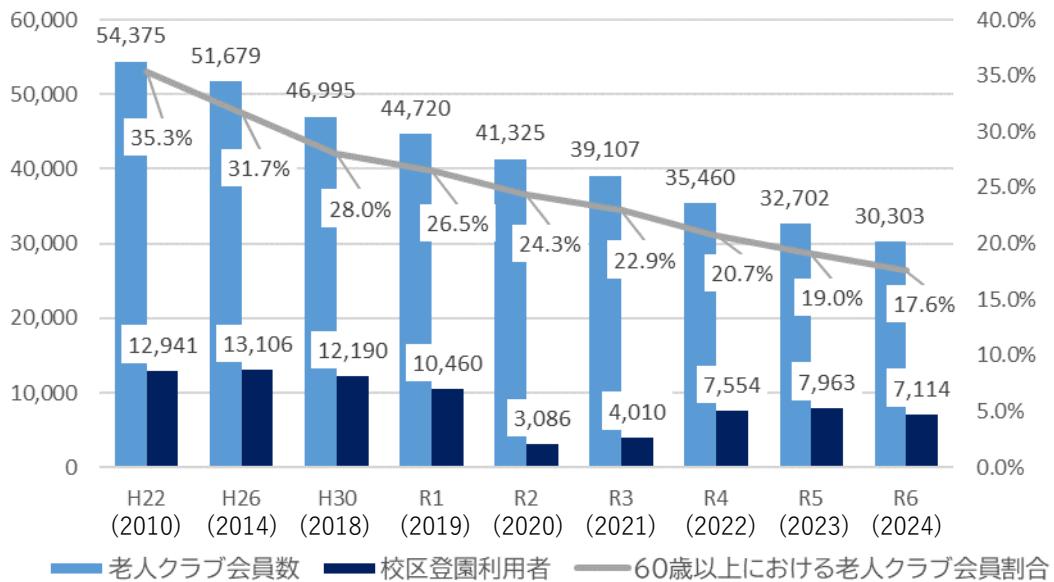
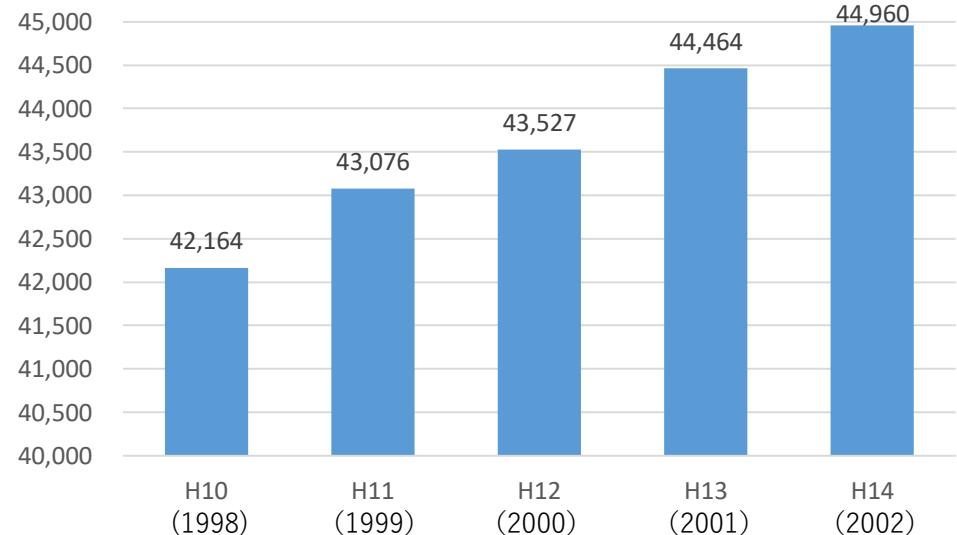
一般登園(団体)の利用状況

- 申請書に記載の各団体の参加人数を集計すると、年間約500人であった。

実利用者数は、約800人。これは、本市の60歳以上人口173,505人の0.46%である。

3 2階 老人福祉センターの利用状況分析

老人クラブ会員の推移と校区登園参加人数の推移



すこやかセンター建設当時、校区登園の参加主体である老人クラブ会員数は増加傾向にあった。

平成22年をピークに老人クラブ会員数は減少しており、校区登園についても参加人数が減少傾向にある。

すこやかセンター設置時は、老人クラブ会員数が60歳以上人口の41.1%を占めており、校区登園事業は高齢者の生きがいづくりに大きな役割を果してきた。一方、R7(2025).4の老人クラブ会員数は28,786人であり、これは、本市の60歳以上人口173,505人の16.59%である。

4 3階 子育て支援施設の利用状況分析

利用状況

コロナ禍以前の利用状況に回復していない(H29 30,054人、H30 30,256人)。

R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
27,211人	9,740人	13,946人	14,333人	14,124人	15,055人

利用状況低下の分析

近年、類似施設である駅前すぐすぐ広場、のびのび広場みらいえの開設等により、利用者が分散されたことが要因と考えられる。



駅前すぐすぐひろば・のびのび広場みらいえの利用状況

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
駅前すぐすぐひろば	—	4,318人	19,796人	28,648人	30,208人
のびのび広場みらいえ	—	—	—	9,592人	9,254人